



CGWORLD

白組

SHIROGUMI INC.
ANIMATION × VISUAL EFFECT

× ColorEdge®

最高のクリエイティブを求める人たち。
— そこに、いつもカラーエッジがある。

ColorEdge®

カラーマネージメント液晶モニター



True to Creativity

プロフェッショナルシリーズ

スタンダードシリーズ

エントリーシリーズ



CG Series
CG276
CG246



CX Series
CX270
CX240



CS Series
CS230

●スペシャルページ公開中 <http://www.eizo.co.jp/products/ce/specialpage/>



白組『ALWAYS 三丁目の夕日'64』制作チームが認めた
デジタルシネマ時代の必須アイテム、ColorEdge

品質の追求と作業効率を高次元で実現させる デジタルシネマ時代の 必須アイテム

テレビCMのアニメーションから映画まで、常に最先端の映像を制作し続ける白組。映画『ALWAYS 三丁目の夕日'64』の制作ではカラーマネージメントシステムを導入し、協力会社との連携を強化するためにEIZOのカラーマネージメント液晶モニター「ColorEdge」を採用した。互いのモニターの色が一致すると、作業効率が上がリ、さらには品質も上がったという。

TEXT_長尾健作(パチ)

キャリブレーションセンサー内蔵
24.1型カラーマネージメント液晶モニター
ColorEdge CG246

SPEC

●パネルサイズ:61cm(24.1型)(可視域対角61.1cm) ●パネルタイプ:IPS(ノングレア) ●推奨解像度:1,920×1,200(DisplayPort、DVI)、1,920×1,080(HDMI) ●コントラスト比:1,000:1 ●視野角:左右178° / 上下178° ●最大表示色:約10億7,374万色(DisplayPort)、約1,677万色(DVI、HDMI) ●輝度(標準値):300cd/m² ●応答速度(標準値):7.7ms(中間階調域) ●外観寸法(横表示・フード装着時・幅×高さ×奥行):582.5×425~553×369 mm ●カラーモード:sRGB、Adobe RGB、Custom、EBU、Rec709、SMPTC-C、DCI、Calibration (CAL) ●質量:約9.9kg ●その他:色管理を自動化する「セルフキャリブレーション機能」、表示ムラを補正する「デジタルユニフォミティ補正回路」、モニター前面のボタンで簡単に切替えができる「カラーモード」 ●価格:オープン ●お問合せ先:EIZOコンタクトセンター
TEL:0120-956-812 www.eizo.co.jp



モニターの色が協力会社と一致 作業効率と品質が上がった!

映画『ALWAYS 三丁目の夕日'64』は、実写やCG、マット画などを組み合わせて、1つの映像にしている。各シーンには様々な素材が必要になるため、白組が主体となってCGや合成作業をし、映像プロダクションのfudeがマット画を制作、IMAGICAがカラーグレーディングを行うというように、パートごとに別々の会社が制作している。各社はそれぞれが制作したデータの確認を頻繁に行うが、互いのモニターの色が一致していないと「先方ではOKに見えても、こちらではNG」ということになりかねない。そのためカラーマネージメントシステムの導入前は、完成間近まで作業が進んだカットをはじめから作り直さなければならなかったり、劇場と同じ色合いで確認できるIMAGICAの試写室へデータを持って行き、スタッフ総出で確認作業をしなければならなかった。

「『ALWAYS 三丁目の夕日'64』が立体視での上映も決まったとき、制作がより複雑になるのがわかっていたので、技術的な問題はできるだけクリアしておきたいと考えました。その中でも「色」は、大きな問題でした」(白組VFXディレクター・渋谷紀世子氏)。そこでカラーマネージメントシステムを導入し、fude、IMAGICAとモニターをColorEdgeで統一、色基準はデジタルシネマの新規格であるDCIとした。そして、DCI規格でDCP (Digital Cinema Package) やフィルムへの出力を担うIMAGICAが中心となり、関わる

人が可能な限り同じ色を見ながら作業できる環境を構築したという。その結果、各社とIMAGICAでの出力との誤差が減り、IMAGICAでの色のチェックも最小化された。何より目指すイメージを正確に共有できるので、品質も格段に上がった。

「以前はIMAGICAさんで色を確認しても、しばらく経つと『いま作っている色は本当に正しいのか』と悩んだりしたのですが、正しい基準があれば安心して作業が進められます」(渋谷氏)。協力会社にとっても同じことが言える。「カラーマネージメントによるワークフローの改善で、白組さんの作業状況がわかるようになり、やりとりがスムーズになりました」(IMAGICAテクニカルディレクター・松本 渉氏)。渋谷氏は「色についてはVFXを制作し始めてからずっと悩んでいたんですが、ColorEdgeを使ってからは、『このデータのこの色を信じていいんだ!』と思えるようになりました」と語る。

ボタン1つで映像データを 宣伝・販促用に瞬時に切替え

映画が完成すると、宣伝・販促用のデータを多数用意する。以前はそれらのデータ作成に大変な手間がかかっていたが、ColorEdgeならプリセットボタン1つで、映画用、テレビ用、印刷用と瞬時に切替えられる。カラーマネージメントされた劇場用の設定での見え方と、各媒体での見え方をモニター上で確認できるのは便利だ。「映像制作で完結するのではなく、スマートフォンなどの最終的なデバイスのアウトプットまで、トータルで考えていく時代です。ボタン



『ALWAYS 三丁目の夕日'64』
映画『ALWAYS 三丁目の夕日'64』(2012年公開)は、山崎 貴監督の『ALWAYS』シリーズの第3弾。今作は2D版、3D版の同時上映で、発売中のBlu-ray及びDVDでも、2D版と3D版が用意されている
©2012 ALWAYS 三丁目の夕日'64 製作委員会

1つでデータを確認できる仕組みは素晴らしい! (白組システム部長・鈴木 勝氏)。

導入してわかった正しい色 階調もより滑らかに再現

主にカラーマネージメントを目的として導入したColorEdgeだったが、モニターの色再現性の高さも、品質向上に役立ったという。「空の色で、場面全体の印象がガラッと変わるんです。赤、青、黄、紫など微妙なニュアンスを見て検討していくのですが、同じデータをColorEdgeで見たとき、グラデーションの幅がこんなにあったのか!と驚きました」(渋谷氏)。

また、ColorEdgeを使う前は協力会社間でも出づらい色があったが、今はColorEdgeで色の再現範囲が広いDCIを色基準にすることで、より色が豊かになり、品質の高いデータを安心して制作できるようになった。「以前のモニターでは、プロファイルを指定しても再現が難しいことがありましたが、今回DCI規格に迫る広色域を再現できるモニターで統一したことで表現できる色域が広くなり、結果的に映像の表現力も上がったと思います」(松本氏)。

白組ではプロジェクトごとに最適な機材を使用することで、時間とコストを削減している。渋谷氏は「モニターは最優先で変えたいと思っていました」と語る。今後はColorEdgeを全員に導入する予定だが、一気にではなく段階的に進めていく方針だ。「まずは色の確認が必要なチームから導入して、徐々に全体へ、という具合に統一していきます。絶対効率的になりますよ」(鈴木氏)。

ColorEdgeの最新機種「CG246」では、既存機能が向上したのはもちろんのこと、液晶画面の特性上、難しかった黒のディテールの表現力がより向上するなど、使い勝手がさらに向上している。映像制作のプロに「最優先で変えたい機材」と断言されたモニターは、今後も様々な現場で、クリエイティブワークをサポートしていくことだろう。



プリセットボタンで媒体ごとの色チェックも効率化

映画が完成すると、ポスターやパンフレット、テレビ、Webなどの各種媒体用に、映像の抜き出しが求められる。ColorEdgeを使えばプリセットボタン1つで各種媒体用のデータを確認できるので、作業効率も格段に上がった。

Company

白組
しろぐみ

白組調布スタジオ外観。スタジオは都内5箇所にあり、プロジェクトごとにチームを編成して制作する。「ALWAYS 三丁目の夕日'64」は白組初の3D(立体視)映画で、調布スタジオで制作された。



右から、鈴木 勝氏(白組システム部長)、渋谷紀世子氏(白組VFXディレクター)、松本 渉氏 (IMAGICAテクニカルディレクター)